



感謝にあふれた 母の人生の最期

高井 裕子様

●感動介護を行った事業所

社会福祉法人ふるさと自然村
特別養護老人ホーム磯子自然村



「ころんじゃった…」と言って私を見上げる目は、痛いというより悲しい目をしていました。

4カ月程入院した後、何かのご縁で自宅近くの特養に入所することがスムーズに決まりました。入所して3カ月程たった時、ずっと同居していた孫娘の結婚式があり、家族は母の参列を熱望していました。その際、酸素ポンペを車いすに取り付け、少しでも楽な態勢で過ごし移動できるよう細心の注意を払い、施設一丸となって準備に取り組み、その姿はまさに家族そのものでした。帰所後、介護士さんにも結婚式の話を楽しそうにしていたと伺い、私たちも大変うれしく感謝いたしました。



そんな大好きな施設ともお別れの日が近づいてくると、母も私も「ありがとう」という気持ちがさらに強くなってきました。日々弱っていく中でも、うわごとのようにありがとうといていたことが思い出されます。

お別れの会では、浅見さんが母への手紙を涙ながらに読んでくださり、こんなにも家族のように思っていたのだと、改めて感謝いたしました。



介護の現場の大変さを間近に見て、この仕事が心身ともに過酷で厳しいことを実感しましたが、それでも、母のように心からのありがとうを伝えたい存在である事を知ってほしいです。ここで受けた温かい介護と皆様の献身的な愛情に今もなお、感謝の気持ちでいっぱいです。

磯子自然村さんで暮らし、素敵な介護士さんに出会えたことで母の人生の最期は豊かであったと思います。